

大人にはなかなか分かりづらい子どもの世界。教育の専門家が4回シリーズで今どきの子ども事情をひも解きます。今回から発達心理学が専門の島義弘さんのエッセーがスタート。

大人に見えない 子どもの世界

Vol.13



鹿児島大学 教育学部
講師 島 義弘

【プロフィール】しまよしひろ 埼玉県出身。名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程修了。2012年4月、鹿児島大学教育学部に着任。専門は発達心理学・パーソナリティ心理学。現在、1歳児の子育て中。34歳

今月の
テーマ

赤ちゃんの機嫌はお母さんの心の鏡

子育ては楽しいこともたくさんありますが、苦勞も多いですよ。早く寝てほしいな「静かにしてほしくないな」と思っているときに限ってご機嫌斜め。そんなことも少なくありません。特に、お母さんが仕事をしていたり、何か予定が入っていたりすると、思い通りにならない赤ちゃんにイライラすることもありますが、お母さんと赤ちゃん

の心はつながっています。お母さんがイライラしたり緊張したりすると、それが赤ちゃんにも伝わって不安や恐れを感じ、ますます機嫌が悪くなってしまいます。赤ちゃんは言葉を使えなくても感情を使ってコミュニケーションを取ることができるので、赤ちゃんの不安や恐れを和らげるためにも、お母さんは「赤ちゃんは泣くのが仕事」と割り切り、お母ら

かな気持ちで接してみましよう。お母さんがリラックスしていると、赤ちゃんは安心していつの間にか眠ってしまいます。そして、イライラしているときには憎らしくも見える赤ちゃんの泣き顔が、リラックスしているときにはとてもいとおしく見えてくるものです。

もちろん、これには周囲の人たちの助けも大切です。例えば、電車で赤ちゃんが泣いてしまうと、お母さんは「泣きやませなきゃ」と焦ります。そんな時に周囲の人が「大丈夫だよ」と笑顔に向けてあげると、お母さんも赤ちゃんもホッとします。

よりよい母子関係というのは、お母さんが安心して子どもと関われる環境から始まるのかもしれない。